

愛知県五条川に侵入した 国内外来魚オヤニラミの食性、成長および年齢

*伴野裕尚・中里将之・谷口義則（名城大・理工）

1. はじめに

国内において人為的に自然分布域外に移入され自然繁殖し影響を及ぼしている国内外来魚の1種であるオヤニラミは、スズキ目ケツギョ科淡水魚であり、関西地方の淀川、由良川以西に自然分布している。本種は、観賞魚としても親しまれ、愛好家によって乱獲された原産地域では生息数が著しく減少してきた。定着した地域では個体数が増加していることが問題となっている。しかしながら、このような国内外来魚に対する市民の問題意識は未だ乏しいのが現状である。

現在までに、愛知県犬山市を貫流する五条川源流部において当歳魚から成魚までのオヤニラミの生息を確認したことを報告している。その結果、本種は定着していると考えられたが、五条川においてオヤニラミが在来種に及ぼす影響は明らかにされていない。また、本種の年齢組成や食性等の基礎的な生態情報についても十分に明らかにされてこなかった。そこで、本研究では五条川においてオヤニラミの食性および年齢組成やこれらと体長の関係等を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

庄内川水系の一級河川である五条川において、2017年7月2日から11月2日の期間に、オヤニラミ採捕を行った。採捕したオヤニラミは体長、体重などを計測した。食性解析は、オヤニラミの標準体長を電子ノギスにより計測し、ピンセットおよび解剖バサミを用いて胃を摘出し、胃内容物をシャーレに取り出した。重量を計測後、胃内容物の種（分類群）同定をし、計数した。成熟したメス個体については、卵全体の重量、15個の卵径および卵3個の個々の重量を計測した。

年齢解析は、オヤニラミの鱗を胸鰭近くの部位から10枚程度採取し、実体顕微鏡下で3枚抽出し写

真を撮った。また画像から年齢を推定した後、各年齢時のオヤニラミの体長を推定し、さらに成長率を求めた（バックカリキュレーション法）。

3. 結果と考察

本研究の結果、オヤニラミは五条川においてカゲロウ、トビケラ、ユスリカの順で多く捕食していることが分かった。また五条川において個体数密度が最も大きいヨシノボリの食性が、カゲロウやユスリカを好むことからそれぞれのニッチが重なっていることが明らかになった。また在来種を捕食していたオヤニラミの個体は全個体中2個体であったことから、五条川においてオヤニラミが直接的に在来種に与える影響は今のところ非常に小さいと考えられる。

オヤニラミは1歳魚が最も多く、本研究で採捕された抱卵個体はすべてが2歳魚であったため、今年産卵が可能な個体が非常に多くなる可能性が考えられる。推定された1歳魚の体長と室内実験下において成長した1歳魚の体長はそれぞれ3.02cm～7.06cm約5cmである。これは、五条川は、オヤニラミにとって非常に成長しやすい環境だと考えられる。そのため、このまま駆除を続けなければ、五条川でオヤニラミの個体数が急激に増加する可能性があり、将来的にオヤニラミの在来種への負の影響が、顕在化する可能性が考えられる。このことから、五条川での生態系の破壊を防ぐためにも、市民のオヤニラミに対する正しい知識を促しつつ、愛知県下のオヤニラミの条例の法的執行力を上げることが重要なことであろう。